

令和2年度 桑名市外国人市民ニーズ調査結果報告書【概要版】

2020年11月30日

I. 調査概要

1. 調査の目的

市内に在住する外国人市民の意識や生活状況、新型コロナウイルス感染症による影響等を把握するための調査を実施し、外国人市民がおかれている現状と課題、潜在的なニーズ等を整理して、今後の市の施策に反映させることで、異なる文化をもつ人々が共に認め合って生活でき、外国人市民が安心して暮らせる環境を整備することを目的とする。

2. 調査実施期間

2020年10月9日（金）～11月9日（月）

3. 調査対象

三重県桑名市在住の外国人市民

4. アンケート調査の回収数

有効回答数：339件

*回答者の国籍

1位 ベトナム (32.4%) 2位 ブラジル (27.1%) 3位 フィリピン (8.6%)

5. 結果

・住居、医療、子育て、教育、仕事、全てのカテゴリにおいて「困っていることはない」と回答した人が最も多い。桑名市で、大きな困難を抱えることなく生活できていることが想定される。

・福祉制度について、約8割の人が「健康保険」と「年金」を知っているが、「緊急小口貸付(22.7%)」「住宅確保給付金(15.3%)」はほとんど知られていない。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、経済的困難を抱えている人が増えている今、制度を利用することにより救われる人もいると思われる。

・ベトナム国籍の回答者のうち約3割に子どもがいることが分かった。今後ベトナム国籍の子どもたちが地域の学校で学ぶようになり、ベトナム国籍の子どもへの支援が必要となることが予想される。

・「地域活動には参加したことがない(36.0%)」と回答した人が最も多い。しかし、「地域活動に参加したことがないが、チャンスがあれば参加したい(26.0%)」「日本語が分からないので、地域活動には参加できない(18.3%)」と回答した約4割の人は、地域活動に参加する意思があると考えられる。また、約半

数が、日本人と「交流したいが、できていない（51.0%）」と回答した。これらのことから、地域活動や交流に関心のある人も多くいることが分かる。

・約8割が「ごみの出し方」「日本の習慣や生活ルール」「交通ルール」について知っていると回答した。しかし、災害に関わる項目「避難場所」「災害時の行動」「災害の情報収集方法」については、知っていると回答した人は約5割以下である。災害について外国人市民に分かりやすく周知する必要がある。

・桑名市に住む外国人が最も困っていることは「日本語について（42.5%）」である。約4割の人が、日本語が不十分であることに困難を抱えている。

II. 調査分析

1. 調査について

・聞き取り調査を行う中で、地域や市内で行われる子ども向けのイベントに関する情報が欲しいが、日本語しかないため読むことができず、参加したくても参加できないという声を聞いた。他にも通訳、翻訳を希望する声は多く、外国語での情報を求めている人が多いことが分かった。

・今回の調査では、日本人からも多く話を聞くことができた。その多くが外国人の生活を心配するものであったことが印象的である。その一方で、外国人と働くことの難しさを話す日本人もいた。今後、多文化共生を進めていく上で、日本人市民の意見も聞くことも重要である。

2. 桑名市に住む外国人市民が抱える、一番の困りごとについて（別表1参照）

・最も多かったのは「日本語について（42.5%）」である。「日本語について」と回答した人の日本語レベルを見ると、「聞く」「話す」「読む」ともレベル3¹を回答した人が最も多い。レベル3程度の日本語能力がある人でも、日本語で困ることが多いことが分かった。

・2番目に多かった、「子どもの教育について（12.1%）」を回答した人の困りごとの内容は、約4割が「子どもの勉強を教えることができない（36.6%）」ことである。ここでも保護者が日本語についての悩みを抱えていることがうかがえる。

・3番目に多い「防災について（8.8%）」を回答した人の多くは、避難場所は知っているが、災害時の行動や情報収集については知らないと回答した。また、聞き取り調査の中で「何年か前に防災訓練に参加したことがあるが覚えていない。災害があったときに不安なので、1年に1回くらいは防災訓練に参加したい。」という声が聞かれた。

・命に関わる「医療について（4.4%）」を回答した人の、困りごとの内容の約5割は「日本語ができないから、簡単に病院に行けない（53.3%）」である。教育と同様に日本語が不十分であることが障壁となっていることが分かった。

¹ 最も低いものを「1」とし、最も高いものを「5」とした。

3. 情報について (別表2参照)

- ・滞日年数が1年未満と1年～3年である人の約半数は日本語で困っていることが分かる。次いで防災についてである。日本語教室と防災の情報は重要であると考える。
- ・滞日年数が長くなっても最も多い困りごとは「日本語について」から変わることがない。日本語教室の情報は、多くの外国人市民から求められている。
- ・市役所が公式に発信している情報を何も見ていないと回答したのは、約6割(60.4%)であった。この6割の人は、人と人とのつながりから情報を入手している。

4. 本調査のまとめ

- ・すべての人に情報が届くようにするために、SNSを利用した情報発信が効果的であると思われる。外国人も多く利用しているFacebookを使用すれば、知人・友人にその情報を拡散することも可能である。最も多く情報を入手する先として「外国人の知り合いの話や外国人のSNSから」と回答した人が約3割であるため、SNSを通じて迅速かつ正確に正しい情報を広められることが期待できる。

情報発信の言語であるが、ある程度日本語ができていても日本語に困っている人が多いことが本調査で分かっている。また、自由記述欄でも通訳・翻訳を必要とする声が多い。そのため、大切な情報は外国語で知りたいと考えている人が多い。桑名市では、やさしい日本語に加え、ベトナム語、ポルトガル語、英語の3言語に翻訳することが有効であると考える。

- ・外国人市民が必要としている情報の上位3位は「健康や医療について」「税金について」「日本語の勉強について」である。これらの情報を簡単に知ることができる市役所のガイドブック、またはサイトで外国人市民に周知することが有効と考える。また、外国籍の子どもが通う保育園・小学校で配布、外国人の利用者が多い食材店やレストランなどに配架することで、より多くの人に桑名市の生活情報が伝わると思われる。

- ・多くの人が一番困っていることは「日本語について」である。他の困りごとも日本語ができないために生じていると想定できるものもある。また、地域活動に参加したいが日本語が分からないので、地域活動に参加できないと回答した人が約2割であった。このように日本語の壁が悩みを生み、行動を制限してしまっていることが多い。

日本語を勉強したいと考えている人が多くいるため、市内の日本語教室をPRし、通いやすい教室で勉強できる人が多く増えることが望まれる。日本語学習の機会を提供することで、日本語ができないことへの不安が徐々に解消されるだろう。また、日本語教室を中心に防災訓練や多文化共生イベントを開催することで、日本語が不安で参加できないと考えている外国人市民が参加しやすくなると思われる。教室のボランティアや学習者と一緒に参加することで、不安が少なくなるだろう。

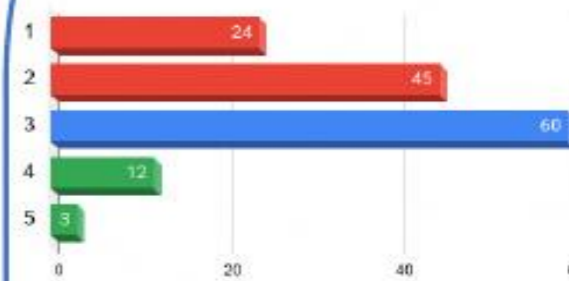
一番 困っていることはなんですか？

8. 医療について、困っていることはなんですか？

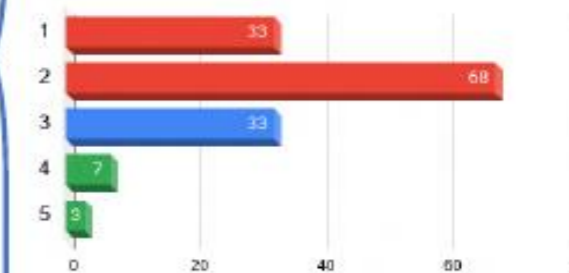


最も低いレベルを「1」
最も高いレベルを「5」とする

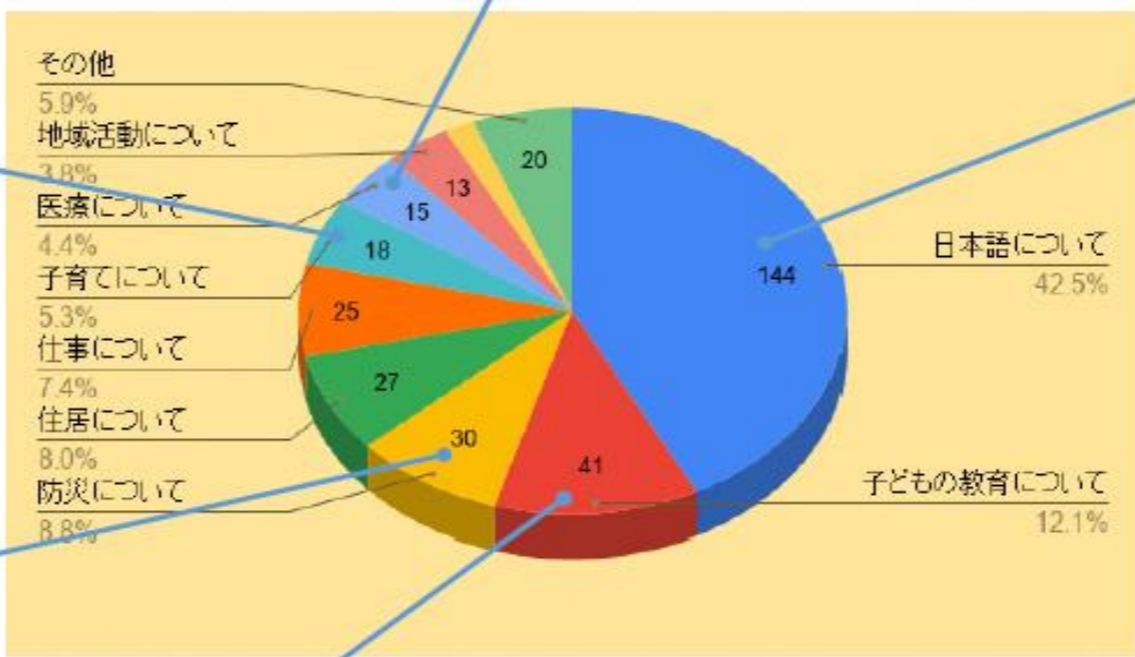
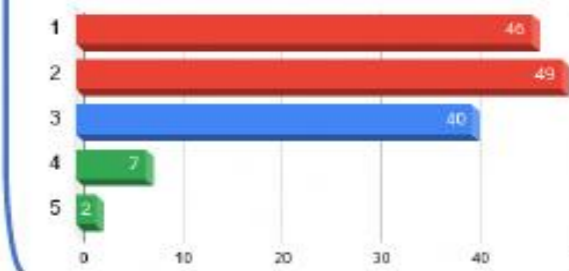
聞く



話す



読む



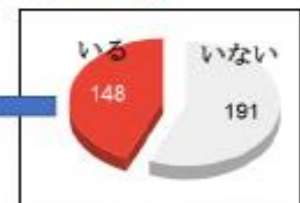
12. 子どもの教育について、困っていることはなんですか？



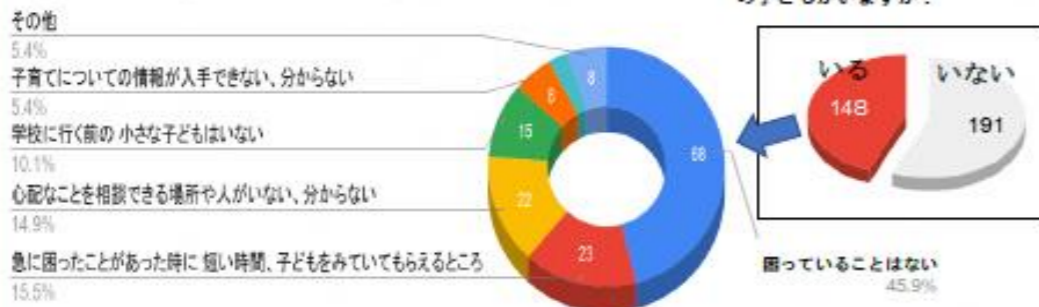
12. 子どもの教育について、困っていることはなんですか？



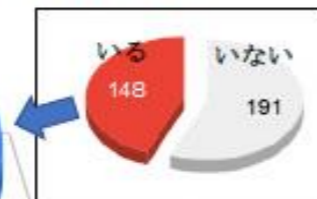
日本で同居している、0~15歳の子供がいますか？



11. 子育てについて、困っていることはなんですか？



日本で同居している、0~15歳の子供がいますか？



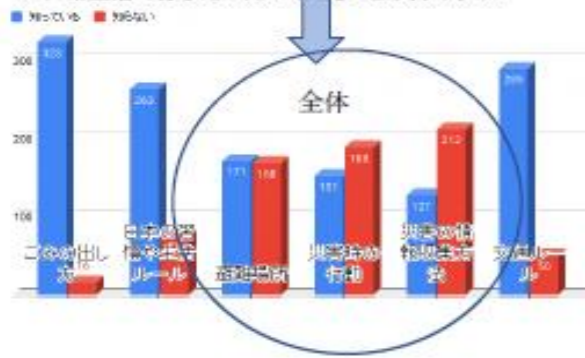
11. 子育てについて、困っていることはなんですか？



21. 日常生活であなたが知っていることは何ですか？



21. 日常生活であなたが知っていることは何ですか？



市役所の情報について

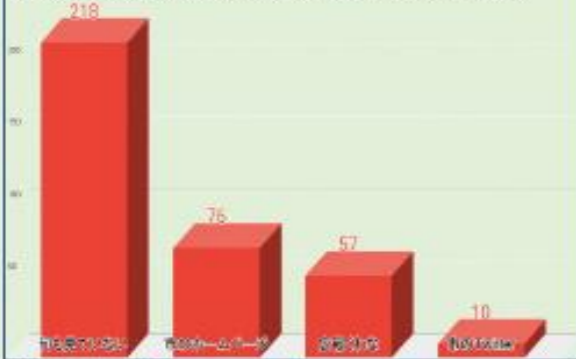
広報くわな



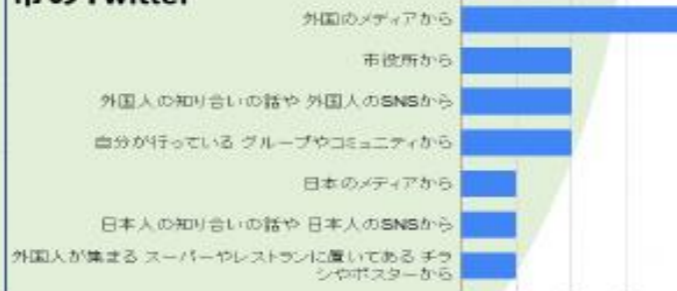
市のホームページ



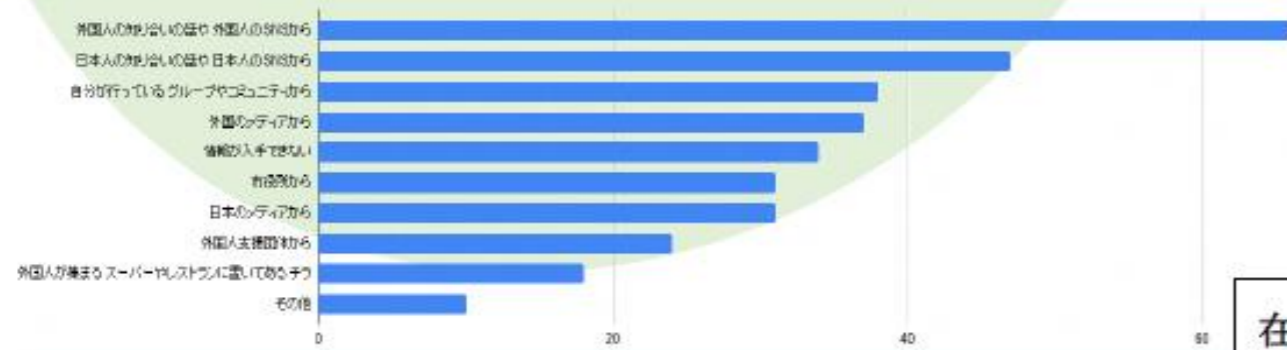
18.市役所が出しているもののうち、見ているものに○をつけてください



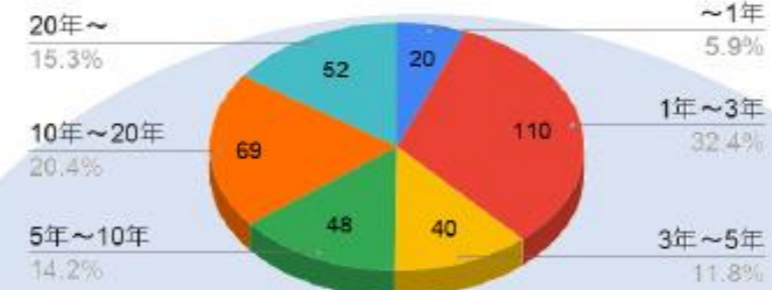
市のTwitter



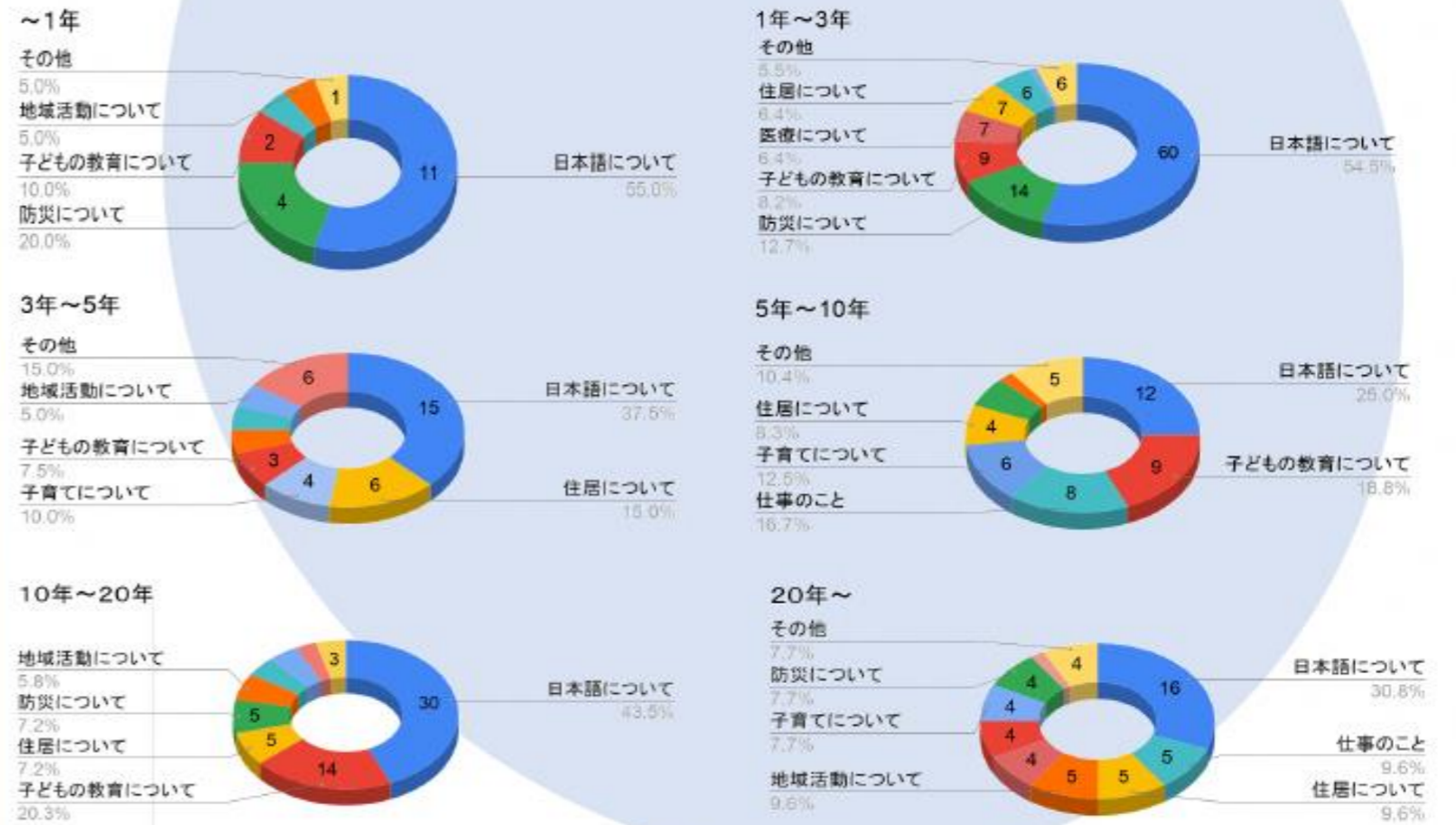
何も見っていない



日本にどのくらい住んでいますか？



一番 困っていることは何ですか？



在留資格・日本語

永住者・永住者の配偶者等



定住者



技能実習



家族滞在



日本人の配偶者等



留学

